

## 日本新生児成育医学会 2023年度 第2回理事会 議事録

日 時：2023年1月26日（木）18：00～21：00

形 式：Web会議システム zoom を利用

出席者：高橋尚人（理事長）、諫山哲哉、落合正行、影山 操、日下 隆、河野由美、佐藤義朗、東海林宏道、長 和俊、徳久琢也、中西秀彦、難波文彦、長谷川久弥、飛弾麻里子、廣間武彦、細野茂春、水野克己、森岡一朗、芳本誠司、和田和子（各理事）  
中村友彦、与田仁志（各監事）、荒堀仁美、北東 功、山田恭聖（各幹事）

（敬称略）

### 議 事：

会議開始に先立ち、11月に逝去された仁志田博司先生への黙とうが捧げられ、2023年2月発刊の学会誌35巻1号に「弔報」が掲載されることが報告された。

### 1. 理事長報告

#### 1) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは1件、そのほかのお知らせなどは4件であった。

通信理事会で承認されたAMED研究費応募に対する支援書を提出したことについて東北大学小児外科学分野 和田 基先生より応募したことの報告があった。

#### 2) 2023年度会計途中経過報告の件

10～12月分までの会計は、新年度となりまだ3か月のため予定外の収支はなかった。

#### 3) 日本小児科学会より「第12回インテンシブコース」演者推薦の件

日本小児科学会より「第12回インテンシブコース」(2023年8月5～6日)における演者推薦の依頼があり、締切が11月20日となっていたことから早川前理事長と相談の上、教育委員会委員長である中西理事に講演してもらうこととした。

#### 4) フロセミド細粒4%「EMEC」の供給停止について

飛弾理事よりフロセミド細粒4%「EMEC」の製造供給停止が予定されていることが報告され、日本小児循環器学会、日本小児腎臓病学会と連名で製造・販売継続の要望書を日本小児科学会経由で、日本医師会疑義解釈委員会に提出した。

#### 5) Taiwan Society of Neonatology（台湾新生児学会）講演の件

2023年3月12日開催の「Taiwan Society of Neonatology」の演者推薦の依頼があり、日下理事に講演してもらうこととした。

#### 6) 日本小児科学会「災害に関連する子どもと家族の支援のための情報」サイトに本学会ホームページのリンク掲載依頼の件（継続掲載）

日本小児科学会のホームページ「災害に関連する子どもと家族の支援のための情報」サイトに本学会のURLの（継続）掲載依頼があり、了承した。

#### 7) 日本小児科学会より「予防接種要注意者の考え方」の確認依頼の件

日本小児科学会より公益財団法人予防接種リサーチセンター発行「予防接種要注意者の考え方」の2023年度版を作成するにあたり、掲載内容と転載許諾の取扱いについて確認依頼があった。掲載内容については森岡理事に依頼し、転載許諾については都度、本学会に申請することで承認した。

#### 8) ルミナス社製「バーサパルスセレクト 80：100」の安定供給に関する企業ヒアリング、要望書提出における経過報告の件

日本小児科学会より「日本産科婦人科学会は、ルミナス社の事情を受け入れて、バーサパルスセレクト 80：

100の供給停止を“やむを得ない”と判断した」と連絡があったことが飛騨理事より報告された。実際のレーザー手術をする産婦人科医が企業の方針を受け入れるのであれば、小児科医が企業のヒアリングを受けても仕方がないと判断し、前理事会で承認された企業のヒアリングを受けることを中止した。

9) 米国小児科関連学会 2023年度学術集会における発表者推薦、小児医学川野賞の件

本学会から応募したが、共に採用に至らなかった。応募者および推薦者には連絡済みである。

10) 通信理事会の件

通信理事会について、あらためて手順を共有した。また、これまで、監事・幹事の会員専用ページに投票のサイトをオープンにしていたが、クローズすることとした。

11) 学会誌広告の件

これまで学会誌の広告を取り扱っていた「医学広告社」より広告事業からの撤退案内があった。今後の広告代理店について紹介できる会社があれば事務局へ連絡することとした。

12) 転載許諾の件

営利目的で原著論文の図表やガイドラインに使用許諾があった際の価格を共有した。書籍への転載が営利目的にあたるか判断は難しいが、当面は現在のままの運用とする。今後、転載許諾があった際は基本的に理事長と編集委員会委員長の東海林理事で対応することとした。

13) 非医師入会の件

薬剤師の方より入会申し込みがあった。

14) 理事長職務報告

通信理事会の発信、問合せ対応を行った。

## 2. 審議事項

### 第1号議案 委員会委員選任の件（高橋理事長）

2023・2024年度委員会委員が賛成1/2以上で承認可決された。現在、22委員会+2WG、さらに2つのWGが組織される予定である。

今後の委員会の運用に関して、委員会は委員長主導で開催し、委員会中の画面共有・議事録作成については各委員会に対応することとした。委員会開催の日程調整・zoomアカウントの取得はこれまで通り、事務局が対応する。

### 第2号議案 委員会運営規定の件（高橋理事長）

規定変更のあった6委員会の委員長より変更箇所の説明があり、規定案について賛成1/2以上で承認可決された。

### 第3号議案 委員・オブザーバー公募の件（落合理事）

2023・2024年度の委員選出過程において、同一の候補者に集中する傾向が認められた。委員の集中化は業務の多重化につながり、委員会運営の負担となる。また新規委員が参入できない状況は、学会活性化や会員増加の妨げとなっている可能性がある。そこで委員会規定に委員・オブザーバーを公募できる項目を加えることにより、意欲ある人材の発掘を行うことができると考え、「委員会運営規定」に以下の条文の追加する提案があった。

「委員長は委員もしくはオブザーバーを公募することができる。ただし、本法人定款施行細則第27条の規定により、原則代議員とする」

オブザーバーは委員長から依頼されて就任するもので、委員の公募だけでよいのではないかと、オブザーバーの経歴を理事会で開示するのはどうか、といった意見があがり継続審議となった。

### 第4号議案 日本NICU家族会機構より名義後援依頼の件（高橋理事長）

日本NICU家族会機構（代表理事：有光威志先生）より名義後援依頼があった。これまで本学会が団体本体に対し名義後援をしていないことや、本学会が公益社団法人であり慎重な対応が求められることなどから、

個々のイベント・活動に対して都度、後援を検討することに、賛成 1/2 以上で承認可決された。

第5号議案 Travel Awards 運用規定変更の件（難波理事）

日台韓 Joint Congress は韓国と日本は秋に、台湾は3月に開催されている。本学会が設けている Travel Awards の受賞者は Joint Congress の参加費が無料となり、渡航費が支給される。

Travel Awards 選出の項目に「学術集会で優れた研究業績を発表した方」とあるが、2024年11月開催の第68回学術集会（松本市）と2025年3月開催の The 7th Joint Congress（台湾）においては開催間隔が短く、Travel Awards の選考が困難となるため、Travel Awards の運用規定の第4条2項に「Travel Awards 受賞者の決定は Joint Congress の開催2か月前までに行う」を追記し対応することについて賛成 1/2 以上で承認可決された。

第6号議案 IPOKRaTES Japan 日本開催の件（難波理事）

楠田 聡先生より IPOKRaTES 日本開催について日下理事（前国際渉外委員会委員長）に相談があった。本学会がサポートして2025年に日本で開催するか、また、サポートして開催となった際、学会の公式行事に位置付けるかどうか、赤字が生じた場合に経済的にバックアップが可能か（学会会計から補填できるか）、学会で積立は可能か、について審議した。前回の日本開催時（香川県）も、本学会がバックアップすることが理事会で承認され、2019年度決算より50万円を補助金として拠出していることが報告されたが、本学会の財政も考慮し、継続審議となった。

IPOKRaTES 側は2025年の日本開催を期待しており、2月中に開催の諾否を IPOKRaTES 側に回答する必要があることから、2025年は日本開催とし、難波理事が主催者となることについて賛成 1/2 以上で承認可決された。

第7号議案 「病気・ケアの解説作成 WG」立ち上げの件（水野理事）

2022年度の理事会で学会ホームページに病気・ケアについてのやさしい用語解説集を掲載することが決まった。解説集は広報委員会・教育委員会・標準化委員会・用語委員会が共同で作成することとし、「病気・ケアの解説作成 WG」（各委員会より数名で構成）を立ち上げることについて賛成 1/2 以上で承認可決された。

第8号議案 「新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG」の立ち上げとプログラム開講の件（諫山理事）

国立成育医療研究センターの甘利昭一郎先生、杏林大学の小澤悠里先生よりシミュレーション教育のプログラムを立ち上げて、本学会サポートのもと、全国展開していきたいと相談があった。NCPRのプログラムとは重ならない内容であること、最終的には本学会がインストラクターや教育を担うようになればいいと考えていること、また、若い医師にとって魅力的な内容になることが報告された。詳細はこれから決めていくこととなるが、本学会の活動の1つとして位置づけ、全国よりメンバーを公募して「新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG」を設置し、進めていくことについて賛成 1/2 以上で承認可決された。

第9号議案 学術集会における委員会企画への非会員の参加費の件（飛弾理事）

学術集会の委員会企画に参加する非会員について、参加費は委員長が学術集会会長に申請し学術集会負担とすること、交通費・運営に関する費用は本学会負担とすることが賛成 1/2 以上で承認可決された。

第10号議案 ホームページ会員専用サイトに学術集会アーカイブを作成する件（長谷川理事）

日本小児循環器学会では、学術集会の講演などを会員限定で視聴できるアーカイブを作って大変好評と聞いている。予算の問題もあるが、会員獲得の一助にもなると考える。「第66回学術集会」に関しては講演者の承諾を得て、本学会ホームページにアーカイブを作ることに賛成 1/2 以上で承認可決された。

ただし、費用の確認を含め、講演時のスライドを含め著作権の確認方法やデータ公開の時期、閲覧可能期間、今後の学術集会も同様に続けていくかについては継続審議とする。

第11号議案 日本小児内分泌学会の先天性甲状腺機能低下症のマススクリーニングガイドライン改訂の件（諫山理事）

日本小児内分泌学会は「一卵性を否定できない多胎児には日齢14までにマススクリーニングの再検を考慮」

と2021年にガイドラインを公表した。MD 双胎、性別一致の多胎児において2週間以内にマスキングの再検を考慮するというガイドラインに対し、本学会の対応について審議した。各理事の地域、施設での状況が報告されたが、現時点ではデータが不十分であることから、まずは各理事が状況を把握し、産婦人科医との連携も念頭に置き、継続審議とした。

第12号議案 パルスオキシメーターを使用した重症先天性心疾患の出生後スクリーニングの提言の件（芳本理事）  
前々期の当委員会で検討を始めていたパルスオキシメーターを使用した重症先天性心疾患の出生後スクリーニングについて、我が国で施行可能な簡便なスクリーニングのアルゴリズムを作成した。与田監事（前委員長）よりこのアルゴリズムの推奨については、各関連学会と共同提言が重要であり、また日本産婦人科医会との協同が必要と意見があった。共同提言については各学会の窓口を調べて相談することとし、本学会として提言することについて賛成1/2以上で承認可決された。

第13号議案 アンケート調査の際の倫理委員会への申請の件（中西理事）

慢性期 iNO 保険収載 WG として現場の実態調査アンケートを実施する。アンケートでは急性期以降 iNO 症例の全数調査を行う予定である。その際に、在胎期間、出生体重など個別データを収集することになり、倫理委員会の審査が必要と考えられるため、本学会の調査研究審査委員会に申請となるか確認があった。高橋理事長より、本学会の調査研究審査委員会は倫理委員会にかけると判断する委員会であるため、倫理委員会の審査に関しては、アンケートを作成している宮田委員の施設か中西理事の施設で審査を通すよう説明があった。

### 3. 第66回学術集会（長谷川会長）

2022年11月24日（木）～26日（土）、パシフィコ横浜

参加者は1,252名であった。黒字決算となり、500万の補償金も全額返金できる予定であることが報告された。

### 4. 第67回学術集会（細野会長）

2023年11月2日（木）～4日（土）、パシフィコ横浜

委員会企画を早めに申請して欲しいと依頼があった。海外からの招待講演を4～5人検討していることが報告された。

### 5. 第68回学術集会（中村会長）

2024年11月8日（金）～10日（日）、ホテルブエナビスタ（長野県松本市）

新生児看護学会：11月9日（土）～10日（日）

### 6. 第69回学術集会（高橋会長）

2025年11月13日（木）～15日（土）、パシフィコ横浜

## 7. 各種委員会報告

### 1. 学術委員会（長谷川委員長）

1) 2023年1月30日（月）18:00より「第3回 web セミナー」を開催する。

- 18:00～18:30「エディター・レビューワーに読んでもらえる症例報告の基本」

細野茂春先生（自治医科大学附属さいたま医療センター周産期科新生児部門）

- 18:30～19:00「未熟児網膜症の管理～最近のトピックス～」

清田眞理子先生（東京都立墨東病院新生児科）

2) 現在、佐多フェローシップキングスカレッジ・プログラム留学助成の応募書類を選考中である。

### 2. 国際渉外交渉委員会（難波委員長）

1) 日台韓 Joint Congress について

スケジュールの確認を行った。

2) 国際共同研究の推進

日台韓で国際共同研究が何かできないか検討中である（各国担当者の連絡先確認中）。

## 3) IPOKRATES Japan について

2022年12月20日(火)21:00からIPOKRATES側とのWeb会議が開催され、日本側からは楠田 聡先生と難波理事が出席した。IPOKRATES側から、2024年3月にバリ(インドネシア)と日本で共催することを打診された。打診から間もないこと、準備期間が短いことなどから2024年の開催は困難であり、2025年であれば開催の可能性があることを伝えた。

香川での成功体験(日下理事が開催)から2025年の日本開催を期待されている。エコー等のハンズオンセミナーや超早産児の管理等、日本人講師をお願いすればよいのではと提案があった。

## 3. 広報委員会(水野委員長)

- 1) Twitterと学会ホームページでセミナー開催の案内をしている。

## 4. 薬事委員会(落合委員長)

- 1) AMED研究費応募に対し「小児静脈栄養関連胆汁うっ滞(腸管不全関連肝障害)に対する魚油由来静注用脂肪乳剤の有用性と安全性に関する医師主導治験」の支援書を提出した。

## 5. 感染対策予防接種委員会(森岡委員長)

- 1) 「早産児への抗菌薬使用方針ならびに各施設の多剤耐性菌感染対策のアンケート調査」, 「NICUにおけるロタウイルスワクチンの定期化への対応に関するアンケート」, 「新型コロナウイルス感染症の母体から出生した児のサーベイランス2次調査」は集計と解析が終了し、第66回学術集会で感染対策予防接種委員会企画シンポジウムとして発表した。

- 2) 「NICUにおけるロタウイルスワクチンの定期化への対応に関するアンケート」の結果は、日本新生児成育医学会雑誌へ掲載が決定した。2023年2月発行の35巻1号に掲載予定である。

- 3) 本学会から公表している「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について」は、今後の社会の状況を見ながら、改訂を検討している。

## 6. 教育委員会(中西委員長)

- 1) 第66回学術集会で以下のプログラムを実施した。

- ・2022年11月24日(木)シンポジウム4「(教育委員会企画)打ち破れ、中小NICUだからこそできる研究プロダクト!」(座長:中西秀彦, 鷺尾洋介)
- ・2022年11月25日(金)第24回教育セミナー優秀ワークショップの発表(座長:中西秀彦 チューター: 郷 勇人)

- 2) 第9回 医学生・研修医向けNICU入門セミナー

2023年7月1日(土)午後WEBで開催予定。参加費は学生・会員は無料、非会員は2,000円とする。

## 7. 医療安全委員会(影山委員長)

- 1) アトムメディカル社製『搬送用保育器インキュアーチ』が保温待機中にバッテリーの異常発熱による発煙・焼損が生じた事案についてメーカーより報告を受けた。高橋理事長と相談の上、その経緯、対処について2022年12月13日(火)付で学会ホームページに「重要なお知らせ」として掲載し、併せて会員のMLにも発信した。

- 2) 2023年1月20日(金)に本学会会員より医療安全委員会に宛てに「FDAより、[Do Not Use Infant Head Shaping Pillows to Prevent or Treat Any Medical Condition: FDA Safety Communication]とのことで、頭蓋の変形防止枕が使用禁止となっているようです。医療機器ではないので管轄外かもしれませんが、これについての情報をお持ちでしょうか?」(原文ママ)と問合せがあった。メーリングリストを活用し委員会内で意見交換した結果、本委員会のみで対応するには情報量が少ないうえに影響が大きいと判断した。他学会の状況を調べ、今後も継続して注視・検討することとした。

## 8. 学会誌編集委員会(東海林委員長)

- 1) 2022年12月15日(木)19:30から第1回学会誌編集委員会を開催し、査読フロー、各委員の担当分野、

特集企画の掲載，現状の問題点を確認した。

①学会誌閲覧アクセス数，投稿数増加に向けた対策について

- 学会誌の閲覧には，会員専用ページから，いくつかのページを経なければならない。導線を検討したい。
- 特集企画の執筆を依頼するには，学会誌が広く閲覧されていることが前提となるため学会誌の存在を周知させたい。
- 広報委員会と協力し，学会誌の内容をアピールできるようなホームページへの掲載，会員へのメール案内文を検討する。
- J-stageの活用の是非について。

以上のことから今後も閲覧を会員専用ページに制限するべきかを検討するにあたり，他学会の学会誌へのアクセス導線を調査することとした。また，長理事より学会誌をホームページに公開するのであれば，定款第3章第7条に正会員の権利として「この法人の刊行する機関誌および図書の優先的配付を受けること」とあるため，定款を変える必要があることが報告された。

②委員より学会誌の企画として仁志田先生に関する特集を企画する提案があった。ご家族のご意向を確認する必要があるが，特集号の発刊ではなく，学会雑誌の特集の1つとして企画したい。

③査読を断る代議員への対応について

代議員の責務に査読があることを2年後の代議員選挙までに明文化させるため，他委員会と連携して検討していく。

9. 新生児成育フォローアップ認定医制度委員会（河野委員長）

- 1) 2023年1月19日（木）に第1回委員会を開催した。フォローアップ認定医制度のこれまでの経過を報告，確認し，到達目標の基準の作成，Web教材の作成等について検討した。E-learningのシステム上の課題があり，再度見積もりをとることとなった。当初は2023年10月より暫定認定医の申請を受け付ける予定だったが，遅れる可能性がある。

10. 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

- 1) 第66回学術集会で委員会主催シンポジウム「女性医師の活躍推進」を開催し，クオータ制導入について公表した。引き続き導入に向けて規約などについて検討していく。

11. 産科医療補償制度対応委員会（細野委員長）

- 1) 個別審査で補償が得られなかった児に対する遡及について，本学会を含む関連5団体連名での意見書を自由民主党政務調査会宛に2022年11月21日（月），提出した。また，2022年12月14日（水）に行われた日本産婦人科医会主催のプレス発表に出席して本学会として遡及に反対する旨の意見を述べた。こども家庭庁ができた際に制度として整備して欲しいと考えている。

12. 災害対策委員会（徳久委員長）

- 1) 日本小児医療保健協議会（四者協）小児災害医療対策委員会 Web 会議（2022年12月19日）に出席した。日本小児科学会，日本小児保健協会，日本周産期・新生児医学会，日本小児看護学会，災害時小児周産期リエゾン連絡協議会，小井土班小児周産期分班より活動内容の報告があり，その中で日本産科婦人科学会の大規模災害対策情報システム「PEACE」の改定が進んでいるとの報告があった。委員会として会員にその周知を進めていきたいが，「PEACE」は周産期・新生児医学会の会員は利用できるが，本学会の会員は利用できないことが今後の課題となっている。
- 2) 「大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる災害医療提供体制強化に関する研究」分担研究課題「周産期・小児医療提供体制に関する研究」第1回分班会議 Web 会議（2022年12月20日）に出席した。本学会の担当するテーマが「地域連携 BCP」と決まったため，今後，委員会で対応していく。

13. 医療の質向上委員会（長委員長）

- 1) 稀有疾患（病態）サーベイランス事業

- 新型コロナウイルス感染症の母体から出生した児（～2023年3月）
- 軟骨低形成症（～2024年12月）

本サーベイランス事業の成果として、下記の論文が掲載されている。

Hijikata M, Okahashi A, Nagano N, Morioka I. Clinical characteristics of congenital toxoplasmosis with poor outcome in Japan: A nationwide survey and literature review. *Congenit Anom (Kyoto)*. 2020; 60(6): 194-198.

#### 2) 本フォローアップ事業

厚生労働科学研究費 健やか次世代育成総合研究事業

「低出生体重児の成長・発達評価手法の確立のための研究」

2021年11月17日（令和3年度）～2023年3月31日（令和4年度）

研究代表者：河野由美（自治医科大学）

#### 14. 倫理委員会（飛弾委員長）

##### 1) 第66回学術集会で委員会企画として以下の2件を行った。

- 教育講演：「小児救急・集中治療における終末期医療の話し合い～多彩な価値観と選択肢：国内外で感じた違和感を含めて～」演者：清水直樹（聖マリアンナ医科大学小児科学教授）
- 家族を交えた多職種による公開WS：「『児の最善の利益』を話し合うために一家族との話し合いが進まなくなった事例を通して考えよう」WS参加の患者家族は日本NICU家族会機構（JOIN）に紹介を依頼した。

#### 15. 調査研究審査委員会（飛弾委員長）

##### 1) 2022年は審査対象となる研究の申請はなかった。

#### 16. 医療の標準化委員会（諫山委員長）

##### 1) 新生児医療の科学的根拠に基づく診療ガイドライン作成グループ（JEBNeo）の活動報告

- 学会前日の2022年11月23日11時～18時にFace-to-face会議を行い、各グループの進捗報告と今後のプラン作成を行った。音響ミキサーをレンタルして、現地とWebのHybrid方式で会議を行うことができた。
- CLDガイドライン作成：既存の系統的レビュー（SR）を使用してそれをUpdateするCQ（Clinical question）班は1月中旬にWorksheet完成を目指しており、3月に推奨の合意形成会議を行って、CLDガイドライン第一弾を今年度中に完成予定である。全てのCQを含んだ最終版は来年度に完成を目指す予定である。
- PDAガイドライン作成：CQやPICO作成が終わり、系統的レビュー（SR）を開始するところで、来年度の完成を目指している。
- この他、アウトカムの重要度評価、薬剤班による新生児薬剤ガイドライン等の作成も進んでいる。

#### 17. 社会保険委員会（佐藤委員長）

##### 1) R6年度診療報酬改定に向けて、内保連に下記を項目とした第一次提案書を提出した。

- 本学会から  
未収載：ハイリスク児成育支援料、ハイリスク児栄養管理料  
既収載：一酸化窒素吸入療法（適応拡大）  
既収載基本診療料：成育連携支援加算（適応拡大）
- 日本周産期・新生児医学会から  
既収載：アルブミン非結合型ビリルビン（適応拡大）、  
サイトメガロウイルス核酸定量（適応拡大）  
未収載基本診療料：高度新生児特定集中治療室管理料

- 日本周産期・新生児医学会との間で、内容精査、提案項目の調整・選定を行い、提案書を作成する予定である。

18. 用語委員会（細野委員長）

特になし

19. 総務委員会（和田委員長）

特になし

20. 学会将来構想委員会（日下委員長）

特になし

21. 利益相反委員会（廣間委員長）

特になし

22. 診療委員会（芳本委員長）

1) 本期の活動方針について共有した。

- 今年度、超低出生体重児の小児慢性特定疾病を厚生労働省へ追加申請する。
- 前々期の当委員会にて検討を始めていたパルスオキシメーターを使用した重症先天性心疾患の出生後スクリーニングについて、我が国で施行可能な簡便なスクリーニングアルゴリズムを作成した。関連学会との共同提言をめざすこととした。

23. 慢性期 iNO 保険収載 WG（中西 WG 委員長）

1) WG 委員のメンバーを選出（9名）した。

2) 慢性期 iNO の実態調査アンケートを実施するにあたり、2022年12月23日、2023年1月23日に委員会を開催し素案について検討した。宮田委員を主任として1,500g以下、日齢7以降のNO使用症例についてアンケート案を作成。2月半ばにアンケート完成予定。アンケート対象施設としては、NRNJ参加施設、大学NICUネットワーク参加施設、新生児医療連絡会加盟施設を検討している。

8. その他

- 委員会が22、WGが4と合計26個となった。活動内容などを鑑み、今後統合するなどして、委員会数を減らしていく予定であることが高橋理事長より報告された。
- 第3回理事会は5月開催予定である。追って、事務局から日程調整の連絡をするので、5月8日（月）～19日（金）の間で参加可能日の入力をお願いしたい。